「生き延びるためのラプソディ」開催のお知らせ

主催｜中塚文菜
共催｜あをば荘
助成｜公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京［スタートアップ助成］
デザイン｜植木裕香

■展覧会趣旨

制作は生活を延命している/生活は制作を延命している。
「生き延びるためのラプソディ」は、生活と制作を結びつけながら/結びつけざるを得ない状況で制作を行う 4 組の作家で構成されています。
身体の状態に向き合いながら制作をすること、自身の制作に適用したルールに生活までも縛られていくこと、信頼のおける他者と共同して制作を行うこと、自身の体験に根ざして制作を行うこと。
参加作家にとって生活と制作は、どちらかが欠けてしまったらどちらも回らなくなってしまうものになっています。
また、「ラプソディ(狂詩曲)」とは、形式が決まっておらず、楽器や演奏形態も自由、民族的または叙事的な内容を表現している様々な曲調をメドレーのようにして構成されることが多い楽曲のことを指しています。
生活と制作の結びつき方は各作家によって異なりますが、本展示では、生活と制作の各作家への影響や、それによって生まれる多様な表現を一つの楽曲のように紡ぎ出していきたいと思います。

※本展示は、2024 年 5 月に富山で行われる同タイトルの展覧会に向けてのプロローグとなります。作家の日記や作品のスタディ・メモなど、作家が何を考えながら生活や制作を行っているのか、その過程をご覧いただければ幸いです。

■参加作家

汲川洋平｜Yohei KUMIKAWA
佐藤史治と原口寛子｜Fumiharu SATO & Hiroko HARAGUCHI
千々和佑樹｜Yuki CHIJIWA
中塚文菜｜Ayana NAKATSUKA

■展示概要

会期：2023 年 12 月 8 日[金]～2024 年 1 月 28 日[日]
開廊時間：土曜日・日曜日　13~20 時、金曜日　15 時～20 時
※年末年始を除く金・土・日　※入場無料
※前期展・後期展で入れ替えを行います

前期展　2023 年 12 月 8 日[金]～12 月 24 日[日]
└出品作家：汲川洋平・千々和佑樹
後期展　2024 年 1 月 12 日[金]～1 月 28 日[日]
└出品作家：佐藤史治と原口寛子・中塚文菜

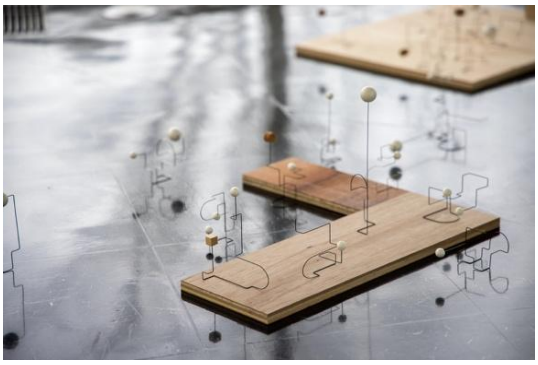
会場：あをば荘
東京都墨田区文花 1-12-12
京成電鉄・都営浅草線・東京メトロ半蔵門線・東武スカイツリーライン押上駅から徒歩 14 分
東武スカイツリーライン・東武亀戸線曳舟駅・京成押上線京成曳舟駅から徒歩 16 分
東武鉄道亀戸線小村井駅徒歩 9 分
http://awobasoh.com

関連企画：アーティストの森田浩彰氏を招いてワークショップを開催します。
12 月 17 日（日）14 時～16 時
※予約制：定員 5 名
詳細は、あをば荘ウェブサイトをご覧ください
http://awobasoh.com/archive

■参加作家プロフィール

汲川洋平｜Yohei KUMIKAWA

1982 年宮城県仙台市生まれ。2013 年金沢美術工芸大学彫刻専攻卒業。2021 年筑波大学大学院芸術専攻退学。
形と素材の関係を構造として見せる立体作品を制作している。近年は自身の病気やそれによる環境の変化から、今までの制作方法を一転し、鉄板や木材といった彫刻的で重厚な素材ではなく、細い針金や小さな木片など扱いやすい素材を用いた軽やかな作品を制作している。主な活動に「金沢彫刻祭 2013」（金沢市内、2013）、「UPRISE 彫刻二人展」（Gallery TURNAROUND、2013 年）、「珍なる二人展」（Hi! Open sesami、2021 年）など。また、Halal Hub の内装の一部や、くさかんむり cafe の看板を手がける（共に仙台市内）。



《ぐるぐる》2013 年（左上）

《Roundabout》2016 年（中央上）

《Roundabout》2016 年（右上）

《structure》2021–2022 年、撮影：武石早代（左下）

千々和佑樹｜Yuki CHIJIWA

1991 年大阪府枚方市生まれ。2012 年東京造形大学インダストリアルデザイン専攻入学、2014 年絵画専攻転科、2017 年卒業。2019 年より、黄金町アーティスト・イン・レジデンスに参加。14 号カンヴァスを購入しようとした際に既製品に当該サイズがなかったことから「14」との関係が始まる。基本的には「14」を意味のないものとして扱い、しかしながら「14」に従いながら平面・立体を用いたインスタレーションを展開している。
例えば、東洋思想では、十五夜（15）を完全として、一つ足りない「14」を不完全とするが、千々和はそのような「14」と自身とを重ねているのだろう。また、実生活ではヴィーガンを実践するなど「14」に縛られた作品と同様、生活にも縛りを取り入れている。
近年の展覧会に「メドューサと 14」（BUKATSUDO GALLERY、2022 年）、「黄金町バザール 2021」（Site-A、2021 年）、「群馬青年ビエンナーレ 2021」（群馬県立近代美術館、2021 年）など。

《怠惰なる節制のうつろへ》2020 年、撮影：Yasuyuki Kasagi（左）
《マニファクチャフォーティーン》2021 年（右）

佐藤史治と原口寛子｜Fumiharu SATO & Hiroko HARAGUCHI

2011 年に結成した 2 人組のアーティスト・ユニット。2 人というユニットを起点に、主に展示する場所や時間をモチーフ／素材とした映像、音、テキストなどを組み合わせたインスタレーションやパフォーマンス、プロジェクトを共同制作している。近年では、人や物を結び付けたり隔てたりする「あいだ」に着目し、それらを採集、編集など施した作品制作を行う。2021 年晩秋に一字改名。近年の展覧会に、「東京ビエンナーレ 2020/2021」（日比谷図書文化館、2021 年）、個展「ツーツー」（金沢アートグミ、2020 年）など。佐藤は 2012 年からアーティスト・ラン・スペースを運営、原口は 2022 年から大阪大学大学院の博士課程に在籍し、女性アーティストのヴィデオ・アートについて研究している。

《すべておぼえる》2021 年（左）
《talks》2019 年（右）撮影:松尾宇人

中塚文菜｜Ayana NAKATSUKA

1993 年岡山県倉敷市生まれ。広島大学教育学部造形芸術系コース卒業、筑波大学大学院芸術専攻修了。2019–2020 年スウェーデン王立美術大学交換留学、現在、東京都世田谷区在住。
個人的な体験を糸口にし、自身が感じる違和感と地道に向き合いながら、美術制度や社会に対して問いを投げかける立体・平面作品やインスタレーションを制作している。
近年の展覧会に、「誰かの祈りを開いて閉じる」（タメンタイギャラリー、2023 年）、「地に愛される」（OF、2021 年）、「群馬青年ビエンナーレ 2021」（群馬県立近代美術館、2021 年）など。

《インディカ米をジャポニカ米にする》2021 年（左）
《誰かの祈りを開いて閉じる》2023 年（右）
ともに撮影：松尾宇人